

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援れたあ二俣川		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 8日		～ 2025年 3月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年 2月 8日		～ 2025年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月10日		

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【保護者様と職員間の情報の共有方法】</p> <p>95分各部屋で見せてくれた姿を同日保護者様へお伝えする振り返りの時間<10分>を設けることで、保護者様と共通認識を持ち日頃の支援の実施ができています。</p> <p>振り返りの時間は、目標に対して実際の姿、成長した点、課題や新たな様子など担当職員よりお伝えをメインに行っているが、保護者様のお悩みなど伺った際には、同日または持ち帰り、次回のご利用時にれたあとしての回答をお伝えしている。</p>	<p>【職員間の共有方法】</p> <p>左記、保護者様とのやり取りや職員間で共有をしておきたい内容を毎回の支援終了後時間をかけて(1日30分×2回)共有を行うことで、その日の担当ではなくとも全体像を把握できる仕組みにしている。</p> <p>保護者様からお困りごとや悩みごとを伺った際、その場で返答ができるもの/持ち帰らせてもらうもの。何れの場合も共有を行うことで、より良い意見や考えをれたあとしてまとめ、次回以降にお伝えを行う。</p>	<p>【記録の取り方】</p> <p>95分の活動に対して全体像の把握がし易いように、A4の記録用紙<5領域の目標、目標に対して実際の姿。それぞれの部屋での様子。保護者様とやり取りをして共有が必要な内容。職員間で共有が必要な事項。水分補給、トイレ>以上を網羅できる記録用紙を作成。この用紙の使用をして次回入る職員がさまざまなことを把握したうえ、支援の準備/実施ができるように努めている。(ただし、基本的には曜日毎に担当者を決めているため全ての情報は担当者にとまるとして)</p>
2	<p>【課題解決を行うにあたり手作りグッズの作成】</p> <p>スプーンや箸、ハサミ、ボタン、チャック練習など生活動作において必要な項目に対し、お子さんが『楽しみながら』課題を達成していくことができるグッズを手作りしている。ひらがなは、キューブフェルト50音を手縫いしたグッズや変身ボックスとばカード。数字は紙コップのピタゴラスイッチ等。</p> <p>形容詞「かたい」が言えるようにカプセルが空かない際「かたい」を伝えるために作成をしたガチャガチャロボットなど。さまざまな『できた』を体感してもらうためにグッズ作成を定期的に行っている。</p>	<p>【わくわくする手作りグッズの作成】</p> <p>個々の課題を達成するためのグッズとは言葉、グッズを見た瞬間「やりたい」と思ってもらうことも大切なため、手作りグッズを作成するにあたり可能な範囲で、現在そのお子さんが好きな色やキャラクターを取り入れることも行っている。</p> <p>ひらがなや数字にあまり関心が無ければ保護者と事業所で課題や願いとして上がった際、前向きな気持ちで取り組むことができるように、ひらがなボールをユーフォーキャッチャー形式でゲットする行いや、宝探しのなかで数字に触れ合うなど同じ手作りグッズでも、お子さんの年齢や発達段階に応じてグッズの使用法の変更を行っている。</p>	<p>【その時々に見合うグッズ作製】</p> <p>保護者様の悩み事は日々移り変わる場合が多いため、そのお困り事に寄り添い、解決していくことができるよう、伺った内容に対して手作り可能なものであれば導入/紹介しやすくなるグッズの作成を行い次週以降、個別の時間に取り入れている。</p> <p>手作りグッズを使用して行った支援の詳細は、現物のグッズを使用しながら、振り返りの時間に保護者様へ直接お伝えをすることで、れたあとしても課題に対する到達度や現状を保護者様と一緒に把握することができるため、とても大切な行い方だと考えている。</p>
3	<p>【個別/小集団/自由あそび、3つ全て行う活動】</p> <p>基本的に3つのプログラムを一人の職員がついて実施をしていくことで、お子さんの発達を総合的に見させてもらえるプログラム編成を行っている。</p> <p>一人のお子さんを見させていただく際、個別と小集団、自由遊びで見せてくれる顔が違う場面も多くあるため、得意/課題を把握するにあたり、3つの活動を行うこのやり方は、事業所として強みと捉えている。</p>	<p>【個別/小集団で同室するメンバーの選び方】</p> <p>小集団の時間は皆で活動を行うが、個別と自由遊びは部屋と時間を分けて活動を行っているため、個別の時間は同室となるお友だちがお互いにとって高めあえる/課題が似ているお友だちと同室になれるように体制を組んでいる。</p> <p>上記を行うことで、お友だちの真似をしてきたを増やせる場面や、やり取りを行うなかで順番や折り合いをつける経験を積み重ねることができる瞬間も多く見られている。</p>	<p>【自由あそびの部屋】</p> <p>自由あそびの時間であっても、職員はマンツーマンに近い人数がつくことにより、物の貸し借り/順番/ことばでのやり取り等、職員は見守り必要に応じて必要なタイミングで状況に合わせて介入や代弁を行うことができている。</p> <p>また、好きな職員と一緒に過ごしたい気持ちの強いお子さんの場合、その時間の保障をしつつ、自由遊びの時間は自ら好きな遊びの選択ができる時間でもあることから、担当職員を入れ替え関わる職員の幅を広げることも意識し、体制の作成を行っている。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>【部屋の大きさ】</p> <p>4部屋あり必要とされる指導訓練室30㎡に対してれたあは33㎡とそう大きくは無いが、午前と午後2部制にして日々の活動を行っているため、1回の利用人数に対して一人あたりの面積は、制度上の2倍の面積がある。しかし、のびのびと身体を動かせる大きな部屋が無いため、運動遊びや大きな玩具などを使用して遊ぶプログラムを実施するには、狭さを感じている。</p>	<p>【部屋の大きさに対する小集団活動内容】</p> <p>小集団活動の内容を固定化させないように、季節の行事/全体製作/ボーリング/身体測定など、さまざまなプログラムの設定を行っているが、サーキットなど身体を使った運動あそびも活動に取り入れたいため、運動の実施はしているものの一番広い部屋のサイズがそこまで大きく無いため、部屋の大きさに合わせた活動内容にせざるを得ない。</p>	<p>【部屋の割り振り】</p> <p>現在は5～6名のお子さんが一緒に活動を行うプログラムで開催をしているが、運動遊びや身体を使ったダイナミックな遊びを行う際には、小集団活動の人数を更に二組に分けてプログラムの実施を行う日も作っていきたいが、3名よりも6名のお子さんが集う方が、学びも増えるため総合的に考えて検討を行っていききたい。</p>
2	<p>【保護者会、きょうだい児交流】</p> <p>これまで保護者会やきょうだい児交流という名目で利用曜日関係なく集える場所の提供を行っていない。</p> <p>それぞれ、または保護者ときょうだい児が同時間に集うニーズがあるようであれば、実施をしたい項目である。</p>	<p>【保護者会やきょうだい児交流を行っていない理由】</p> <p>保護者会やきょうだい児交流の場を設けていない理由に関して、ニーズがあまり無い点と、事業所が午前/午後の2部制で運営をしてしまっていることから、事業所のお休みの日に営業をしない限り、お子さんと保護者様をお誘いして会の実施をしていくことが現状は難しい。</p> <p>ほか、交流に対して必要と感じていないという意見や個人情報の観点から、会の実施をしていくことに踏み切れないでいる。</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>保護者会という名目で開催をした場合交流を希望されない保護者様が参加から遠ざかってしまう可能性もあるため、保護者会という名目で開催をするのではなく、作品展など日頃のお子さんの活動内容を見てもらうことを目的として今後イベントの開催ができれば、交流目的ではなくても、お子さんを通して、保護者様同士の繋がりが自然とはじまるような場所の提供を4月以降、お子さんの生活が落ち着いた頃、積極的に行っていきたい。</p>
3	<p>【幼稚園/保育園との交流】</p> <p>これまでに幼稚園/保育園さんとの交流を行ったことがない。</p> <p>このような場の開催があり、地域の幼稚園/保育園との交流があるに越したことは無いと思う反面、実際幼稚園や保育園に通っているお子さんも多く、また交流の必要性は特に感じていないというお声も一定数いただいており、開催をしていないが、交流について全体でアンケートの実施をしたことは無いため、今後ニーズの把握をしていきたい。</p>	<p>【園交流について】</p> <p>園交流となると、れたあから園へ伺う際の手段が限られてしまう(送迎をしていないため、車移動が難しい)</p> <p>また、れたあに来るという見通しを持って登室をしたお子さんに対して、園交流に対して、事前/直前に視覚的に細かく活動内容を伝えたとしても、イレギュラーの行動となるため、日頃落ちついて見通しを持ちれたあプログラムに参加ができているお子さんに対して、新しいものを取り入れる点に踏み切れないでいる。</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <p>幼稚園/保育園との交流に関して、実際希望される保護者様がどの程度いるのか把握をするため、今後アンケートの実施を行っていくとともに、園交流をしてもらえる幼稚園/保育園さんがあるのか、調査をしていきたい。</p> <p>実際に園交流の希望者が多数いらした際には、安全面をはじめ、さまざまなことを視野に入れながら園交流の実施ができるように、動いていきたい。</p>